



# 環境の森センター・きづがわ建設に向けて

～ “環境の森センター・きづがわ”は、皆さんの日常生活に欠くことのできない施設です。～

市では、市民生活に不可欠な新たなごみ焼却施設“環境の森センター・きづがわ”（鹿背山地内）の早期稼働に向けて、平成28年度からいよいよ、施設の建設工事に着手します。

“環境の森センター・きづがわ”は、木津川市と精華町から排出される可燃ごみを処理するため、老朽化が進む

相楽郡西部塵埃処理組合の“打越台環境センター”（精華町内）に代わる施設として整備を進めています。

今月号では、“打越台環境センター”の運転状況や排ガスに関する“打越台環境センター”と“環境の森センター・きづがわ”の設計値の比較を、お伝えします。

## 【“打越台環境センター”の老朽化が進んでいます】

“打越台環境センター”は、昭和55年4月から稼働しています。

稼働後、定期的に点検・整備をおこない、処理機能の保持に努めていますが、平成28年4月で稼働後37年目となり、機械・電気設備や煙突などの老朽化が相当進んでいます。

昨年度は、深刻な故障等はありませんでしたが、ごみクレーンの部品が故障したため、数日間、緊急停止することがありました。

施設が古いため、機械設備が故障した場合、部品によっては都度、製作することが必要となり、長期にわたり、ごみ処理が滞る懸念が高まっています。

また、関西文化学術研究都市をはじめとする宅地開発による人口増加により、“打越台環境センター”だけでは処理しきれない状況です。



ごみを投入する  
プラットフォーム



老朽化が進む煙突

平成26年度の実績では、家庭から出された木津川市の可燃ごみ量は約11,884tでしたが、その6割に相当する約7,130tの処理を民間事業者に頼らざるを得ない状況でした。

市民の皆さんの日常生活を支える“環境の森センター・きづがわ”の整備は、待ったなしの状況です。

## 【現状より環境負荷の軽減を実現します】

“環境の森センター・きづがわ”の設計は、これまで、法令で定める基準値との比較をお伝えしましたが、最新かつ実績のある排ガス除去技術を取り入れることで、“打越台環境センター”に比べても、さらに環境負荷の軽減を図ります。

なお、打越台環境センターの実際の排ガス濃度は、設計値・環境基準値などを大きく下回っており、周辺環境への影響は特に見られません。

“環境の森センター・きづがわ”の運転に際しても、設計値を上回ることはないよう、施設の維持管理に努め、環境負荷の軽減を図ります。

また、施設の稼働後は、市民の皆さんに排ガスの測定結果を公開することにより、信頼される施設運営に取り組めます。

“環境の森センター・きづがわ”の早期稼働に向けて、地元の皆さんをはじめ市民の皆さん、一人ひとりのご理解とご協力をよろしくお願いします。

【排ガスに関する設計条件の比較表】

項目	単位	設計値の比較	
		打越台環境センター	環境の森センター・きづがわ
ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	0.05	0.01
硫黄酸化物	ppm	100	30
塩化水素	ppm	700	50
窒素酸化物	ppm	250	50
ダイオキシン類	ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	10	0.05
水銀	mg/m <sup>3</sup> N	設定なし	0.05